

平成 31 年度（令和元年度）北茂安中学校 学校経営計画

（1）教育指導の構想

① 本校の教育課題

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| ○さらなる学力向上 | 学習意欲の向上、家庭学習の充実、活用力・協働力の向上 |
| ○豊かな心の育成 | 特別の教科「道徳」の充実、郷土愛・やさしさ・粘り強さの醸成 |
| ○生徒指導の充実 | 生活習慣・規律の向上、対人スキルの向上、SNS での問題防止 |
| ○特別支援教育 | 情緒学級 4 名、知的学級 1 名、その他支援が必要な生徒への対応 |
| ○不登校対策 | 完全不登校、不登校傾向 9 名（病気 1） |

② 本校の教育目標

『 知性・感性・耐性を、自らたかめる生徒の育成 』

～「かしこさ」「よさ・やさしさ」「粘り強さ・たくましさ」を目指して～

目標達成のキーポイント：組織力・指導力・信頼関係
判断の基準：それによって生徒の資質・能力を高められるか

〈目指す学校像〉

- ・学ぶ意欲と学力を高める学校
- ・豊かな心と耐性を育てる学校
- ・安全で落ち着きのある学校
- ・地域に親しまれ、信頼される学校

〈目指す生徒像〉

- ・場と言動を整える生徒
- ・自律の精神をもって学ぶ生徒
- ・目標をもって困難に挑む生徒
- ・思いやりや感謝の心をもつ生徒

〈目指す教師像〉

- ・情熱をもち、生徒と共に学ぶ教師
- ・生徒を理解し、支援に努める教師
- ・向上心をもち、研修に努める教師
- ・家庭・地域との連携に努める教師

《北茂安中学校》

- 生徒が・・・充実感をもち、明日も行きたいと思う学校
- 保護者が・・・通わせたい学校
- 地域が・・・誇りとする学校
- 教職員が・・・勤めたいと思う学校

③ 本年度教育の重点

生徒が目を輝かせながら、学校が楽しい、明日も学校に行きたい、そう思えるような学校づくりをするために、今年度は以下のことを重点的な目標とする。

- ア、将来へ向けた確かな学力を身につけさせる。
- イ、道徳教育等により、豊かな心を育てる。
- ウ、生徒自身のたくましい自立と豊かな自律を促す。
- エ、安心安全で生徒が明るく活動する環境を作る。
- オ、業務を改善し、教職員の資質・能力を高める。

④ 本年度教育の重点についての具体的な取り組み

ア、将来へ向けた確かな学力を身につけさせる。

○学力学習状況調査の分析と活用

・全国の学力・学習状況調査や県の学力調査をはじめ、校内での各種テスト結果をもとに生徒の学習到達状況を分析し、課題を把握し、解決に向けて取り組む。生徒の生活や学習の実態に応じた指導体制を構築する。

・H31年度2年生（H30年12月調査）の対県平均比では、理科が県平均を上回り、英語、国語がほぼ県平均並みである。課題となるものをあげれば、数学の「見方・考え方」及び「技能」、社会の「思考・判断・表現」がある。内容別では、国語の「語句に関する知識」、数学の「関数」、社会の「世界の諸地域」である。

・H31年度3年生（H30年12月調査）の対県平均比では、5教科すべてが県平均を上回っている。特に国語、社会、英語は5ポイント以上高い。課題となるものをあげれば、数学の「見方・考え方」、理科の「技能」及び「見方・考え方」である。理科では特に「化学的領域」に課題が残る。

○意識調査やアンケートの活用

・各種調査の結果とともに、独自にアンケートを実施し、生徒の授業に対する意識、家庭学習時間、生徒の学習計画性、SNSやメディアに費やす時間などを把握する。

○研修の充実

・平成29・30年度北茂安校区の小中学校が共通して取り組んできた「北っ子学習3か条」「伝える力」を柱に研究・実践を継続して、学習規律を保持させ、思考力・表現力を高める。

・本年度の校内研究は道徳の授業づくりであるが、「主として自分自身に関すること」の中で、「向上心、個性の伸長」「克己と強い意志」「真理の探究」等の内容項目を重要視することで、「学びに向かう力」を育てる。

・教育センターの講座、先進校視察、スーパーティーチャーの授業、教科指導に関する書籍等を積極的に活用し、教師の指導力を高める。

○ICT機器の活用

・電子黒板やタブレット型PCを有効に活用し、分かりやすい授業、効果的・効率的な授業づくりを推進する。

イ、道徳教育等により、豊かな心を育てる。

○道徳教育の充実

・年間35時間の授業はもちろん、全教育活動を通して人権や生命尊重の意識を育て、ひいては、いじめの未然防止につなげる。

・道徳教育をテーマにした校内研究のなかで、年間計画の見直し、TTや輪番による授業システムの工夫、「伝え合う」場面の工夫、教科横断的な道徳の実践、適切な見取りによる評価の検討を行い、生徒の人間力を高めることにつなげる。

○体験活動の推進

・職場体験や福祉体験、ボランティア活動などを地域と積極的に連携して実践し、多くの人とのふれあいを通して、思いやりの心や感謝の心、勤労意欲、奉仕の精神など豊かな心を育てる。

○読書活動の推進

・ボランティア団体による「読み聞かせ」（朝の会で実施）やその他の読書活動を推奨し、本に親しませ、気持ちを読み取り力や想像力、思いやりの心を育てる。

ウ、生徒自身のたくましい自立と豊かな自律を促す。

○生徒会活動の活性化

・学習指導や生徒指導に関することでも、生徒会活動とリンクを図り、自治的・自発的な活動を推進し、生徒の自律を高める。

○生徒指導体制の構築

・問題行動の未然防止のために、考えさせ気付かせる指導を取り入れて、規範意識の醸成を図る。また、学校組織として諸問題に対応するために、学年主任や生徒指導主事に情報が集まるシステムを構築し、組織的に対応することによって、問題行動の早期発見、早期解決を図る。

○時間厳守の指導

・基本的な生活習慣の定着を図るために、朝の登校指導を全職員で徹底して取り組み、遅刻0を目指す。また、教職員自らが適切な時間の観念をもち、率先垂範を心がける。

○明るく元気な挨拶やきちんとした身なりの指導

・生徒会と共に、朝のあいさつ運動を行い、明るく元気のよい挨拶で一日をスタートさせるようにする。身なりについても、生徒会の自治的な活動の中で、北茂安中の誇りをもたせ、中学生らしさを考えさせる。

○掃除指導の徹底

・掃除の前の話の中で、掃除の意義やよさを生徒に考えさせ、10分間の自問掃除を充実させる。時間徹底させ、愛校精神を持って校内をきれいにしように、師弟同行で指導する。

○部活動指導の充実

・部活動を生徒の「自主性・協調性・責任感・連帯感・社会性」を高めるもの、「忍耐力や向上心を培い、達成感や成就感を味わう」ことのできる教育的意義をもつ活動ととらえ、全職員でかかわっていく。

・短時間で効果的な指導を工夫し、技術面のみならず、体力面や精神面の向上を意図して指導する。外部指導者や部活動指導員を活用する場合には、特に教育的な配慮について共通理解をしておく。

・体力、技能、精神の向上のためには適度な負荷が必要であるが、生徒個々の発達段階や健康状態に十分配慮して、過度な負荷や負担とならないように留意する。

○キャリア教育の充実

・職場体験学習を2年生で、総合的な学習の時間として実施する。事前学習としてのビジネスマナー講習や「働くこと」についての企業人講話などを通して、体験学習を充実させる。社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できるなど社会人・職業人として自立していくことができるようにする。

・1年生では、職業学習として「働く人に学ぶ」、2年生の進路学習として「先輩に学ぶ」など、学級活動の中で3年間を見通して、キャリア教育を充実していく

エ、安心安全で生徒が明るく活動する環境を作る。

○開かれた学校づくりの推進

・生徒が地域での行事にボランティアとして参加する機会をもち、地域で見守って頂いていることに感謝する指導を行うとともに、地域や母校に対する誇りと愛着心を育むために、地域の「もの・ひと・こと」を活用して、地域と協働して学校教育活動を展開していく。

○教育相談体制の充実

・いじめのないクラス経営に努めるとともに、いじめや生徒指導に係わるアンケート調査や教育相談を定期的実施し、早期発見・早期対応に努める。また、教育相談主任が中心となって、教育相談体制の構築を図るとともに、長期休業中に職員研修会を開き、指導力向上に努める。

○交通安全・交通マナーの向上

・自転車並進や一旦停止違反などによる事故及び地域からの苦情をなくすために、全校集会等で、事例を示した指導を行う。また、効果的な映像教材やロールプレイなどを取り入れ、生徒の心響くような取り組みを行う。

○学級づくりの強化

・共に学び合う授業（対話的な学び）づくりの前提として、構成的グループエンカウンターをはじめ、一人ひとりを尊重し合い、高め合う学級集団づくりの実践を行う。

○小中連携の教育活動の継続

・小中授業参観や授業交流を通して、相互理解を深め、生徒指導や学習指導に活かす。

○学校の情報発信

- ・学校教育活動、PTA 活動、地域での活動などの情報を学校だよりや学校HP、学校情報携帯メール（マチコミ）を活用して提供することで、学校・地域・保護者が緊密な連携と共通理解のもと、子供を中心にすえた教育環境を築いていく。

オ、業務を改善し、教職員の資質・能力を高める。

○業務の効率化

- ・行事の精選、出張の見直し、分掌事務の簡素化などにより、教職員が生徒と向き合う時間を確保するよう努力する。
- ・教材の協同作成、共有化を推進し、業務の量を減らしつつ質を高めていく。
- ・部活動複数顧問制や外部指導者や部活動指導員を効果的に活用し、時間による「分担」と内容による「分業」を推進する。

○TT授業の推進

- ・基礎・基本の確実な定着を図るために、TT 授業できめ細かな学習指導を行うとともに発達段階と個に応じた指導を展開する。
- ・T1とT2の役割を機能的に分担し、時間の無駄を省きつつ生徒により多くのものを還元できるように、指導方法の研究を行う。
- ・TT 授業を効果的なOJTの場面ととらえ、教師間の学び合いを促進する。

○メンターとしての学年職員の活用

- ・学年に所属するベテラン教師や中堅教師をメンター（支援者）ととらえ、若手教師が学ぶ機会を設定する。道徳科や学級活動においては、教材や指導方法を相互に共有しあい、授業の質を高める。

○ネット環境の整備と活用

- ・ICT 機器（電子黒板、タブレット）を有効活用した授業改善に取り組む。
- ・校務シェアボードや校内LAN共有フォルダを有効に活用し、職員間の連絡の効率化と確実性を高める。

○教諭補助職員の有効活用

- ・教諭補助職員を活用して、担任等の学年事務や学級事務等の負担を軽減し、その時間を教師間の相互授業参観、教材の協同作成等の時間にあてて、教職員の資質・能力の向上につなげる。